



えんむすび隊って？

「えんむすび隊」は高知大学リエゾンオフィス コラボレーション・サポート・パークが主催する高知大生のための「地域で学ぶ、地域を学ぶ 1日だけのSTUDYツアー」です。

私たちの暮らす高知県は大小さまざまな課題を抱えています。えんむすび隊は、そのような現場の実際に触れ、当事者として地域の課題を解決できるような人材を育成する初めの一步になればと全学部全学年を対象に実施しています。

学生には大学の中にいるだけでは知りえない人と出会い、地域の魅力に触れると同時に課題を肌で感じ、学びに生かす機会に。地域の方には、学生との交流や触れ合いを通じて、自分たちの地域を見直すきっかけや課題解決のヒントになればと願っています。

高知大学 コラボレーション・サポート・パーク

高知市曙町2丁目5番1号
高知大学朝倉キャンパス学生会館IKUS2階

電話:088(844)8932
FAX: 088(844)8948
電子メール: colla-par@kochi-u.ac.jp



地域で学ぶ、地域を学ぶ 1日だけの STUDY ツアー

高知大学

えんむすび隊

KOCHI UNIVERSITY'S ENMUSUBI-TAI



高知大生と一緒に
地域の魅力発見、
笑顔の種まき、
しませんか。



様々な企画を実施しています。

【体験型観光プログラムブラッシュアップ】

高知県内で様々な組織が独自に着地型観光ツアーを実施しています。若い世代の心をつかむような、観光資源を生かした体験型観光ツアーのブラッシュアップにえんむすび隊がモニターとしてご協力しています。



【地域の運動会への協力】



人口減少地区の運動会へ学生チームとして参加し、大会を盛り上げます。

【農作業体験と地域の魅力探し、地域住民との交流など】

草引きや田植え、植え付け、収穫など人手が必要な農作業を大学生と地域の方が一緒に行い、大学生と共にワークショップなどで魅力探しや交流などを行っています。



えんむすび隊一日の流れ(例)

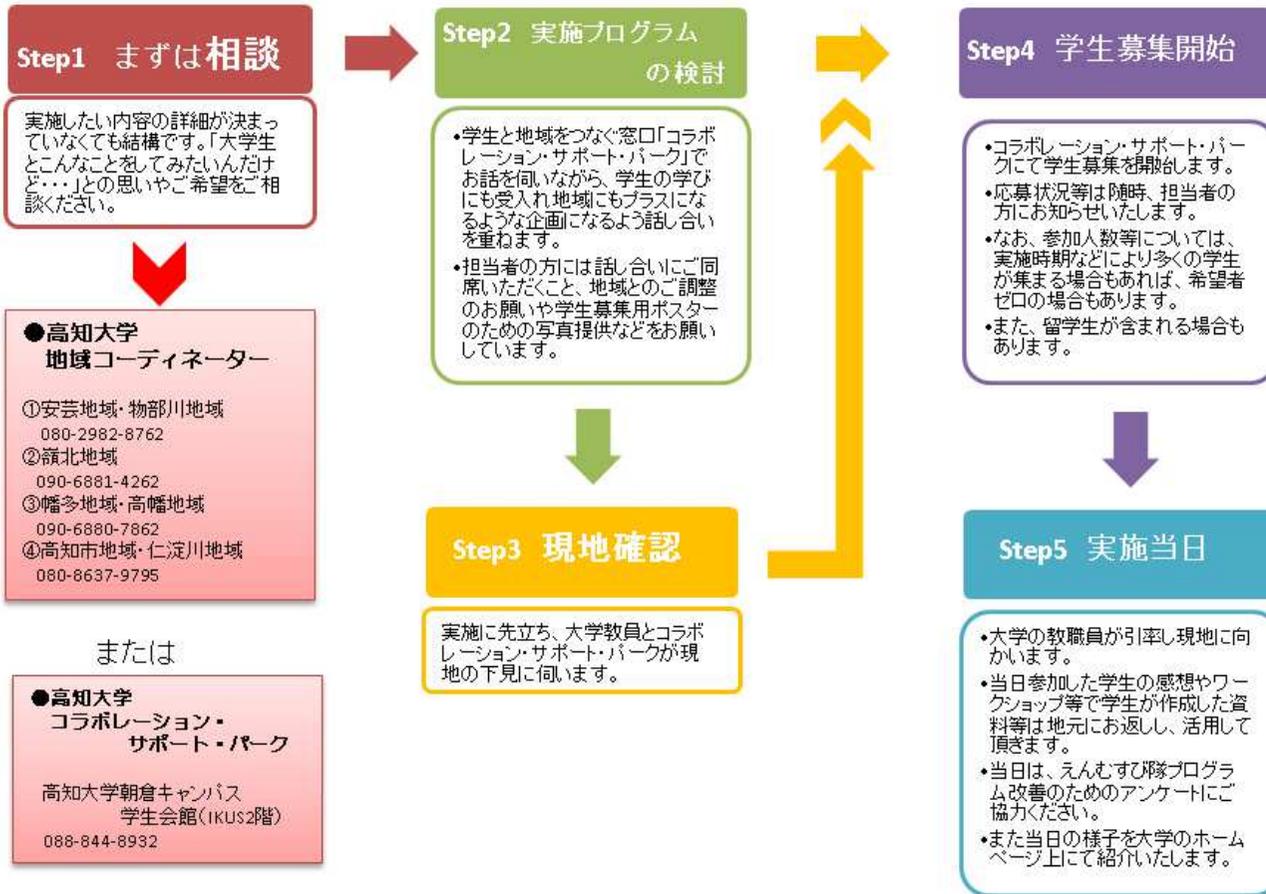
【農作業・地域交流などの場合】

9:30 現地着、ヤマイモ植え付け作業、地域の方と一緒に昼食づくり、地域の方との交流、地域探検ワークショップ
16:00 終了

【イベントなどのお手伝いの場合】

10:00 現地着、海洋堂かつば館見学、2号館オープン記念イベント出演、海洋堂ホビー館見学
16:00 終了

えんむすび隊企画から実施までの流れ



- 注1) 未成年の学生が含まれるため、アルコール等が入る企画には対応できません。
- 注2) セクハラなどの問題が起きないようにお互いに注意を払いながら企画を進めていきましょう。
- 注3) 実施を希望する日の2か月ほど前までにご相談いただくと準備がスムーズに進みます。また、窓口となる担当者を決めて頂けると助かります。
- 注4) 教育活動の一環ですので、イベント等の集客目的、アルバイトの代替労働力としてのお申し出には対応いたしかねます。



【参加学生の声】

- ★地域に地域外の人が入って活性化をしよう！としたとき、どうしてもそこにお金を生み出すことを考えてしまいます。もちろん、地域として続いていくためにはお金も必要不可欠なのでそれを否定するつもりもないし、考えを一転させることもきっとないと思います。しかし、地域の方が一番に望んでいることは実際にそこへ行き、短い時間だけでも話をしたり交流をし、「素敵な場所だね」と愛着を持ってもらうことなんだろうなとこのえんむすび隊を通して感じました。
- ★今回の活動を通して、楽しむことの大切さを学びました。最初はお客さんがたくさん来て自分自身が笑顔になることをすっかり忘れていました。しかし、スタッフの方はお客さんとの会話を楽しみ、またお客さん同士が笑顔で話す姿をみて、ハッとさせられました。どれだけイベント内容が楽しくとも接する人が面白くなさそうだと、意味がなくなると気づきました。

【学生受け入れ地域の方の声】

- ★地元の方（高齢者）が、「これで一つ若返った」と言われましたが、まったくその通りで、高齢者のもとに若い方がヒアリングに行く「福祉の効果」は絶大なものがあると思うのです。若い人が高齢者のもとに行き、昔の知恵や技を聞き書きする、そのことで地域の文化や歴史が保存伝承され、しかもみんなが元気になる。こういう仕組みは、政策の一つとして確立されてもいいのではないかと思います。
- ★若者と交流することで、地域の人が元気になり、刺激を受け、話が止まらないぐらいお話ししていたのが印象的です。そばのことだけでなく、地域全体の魅力についてまとめて頂き、今後の参考となる体験や資料ができて良かったです。地域活動へのモチベーションが上がったと思います。
- ★何よりも交流時に笑顔、別れの涙？が生まれていたこと。孫世代の学生が来て、ともに交流をもつというだけでも、日々に華がそえられ、次はいつ？というような声も出ていた。